

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018 年度（後期）指定公募

「地元医師会、行政を交えた顔の見える多職種連携研修会への助成」  
完了報告書

「劇団 完熟みかん」～私たちはなぜ人生会議をするのか？～

申請者：日下部明彦

所属機関：横浜市立大学医学部医学科 総合診療医学

提出年月日：令和元年 9 月 31 日

## 助成により行ったこと

- (1) ACP の意義を行う側、行われる側の立場を変えて考える多職種でのワークショップ
  - 1部 基調講演（なぜ私たちは人生会議をするの？ 赤羽医師）
  - 2部 ロールプレイ（もしも手帳を相手にどう勧めるか？）
  - 3部 ワークショップ（ACP 普及の具体案を考える）
  - 4部 ACP 具体案のコンペティション、優秀作品発表
- (2) ワークショップ周知のためのチラシ作成
- (3) 会議録作成による事業の記録保存

## 結果

- (1) GW 参加者は 77 名（スタッフ+ファシリテーター 10 人）
- (2) 参加者の内訳は、医師 12 人、歯科医師 1 人、薬剤師 2 人、看護師 19 人、ケアマネジャー 15 人、MSW 3 人、行政職員 4 人、介護事業所事業主 4 人、介護職員 4 人、看護学生 3 人、その他 10 人。
- (3) 赤羽重樹医師（横浜市医師会常任理事）の基調講演は、国民のアンケートによると ACP を必要と考えている国民は多いが、実際に ACP を行う人は少なく、その理由として、切っ掛けが無いことと、知識不足を挙げた。対策として、具体的な知識として、「病みの軌跡」を国民に理解してもらうことと、「もしも手帳」のような ACP の切っ掛け作りを目的とした、元気な人対象で、医療やケアの選択肢が詳細過ぎない記入ツールの普及を挙げた
- (4) 演劇：「ちかばあちゃんのもしも」がん治療中の高齢女性が、治療継続中止を主治医から配慮なく説明され、ショックを受けるが、自ら望む生活に合わせた医療を選ぶというストーリー
- (5) ロールプレイ：3~4 人で一組となり、「もしも手帳」をどう相手と家族に勧めるかの設定で行った。説明者は自分の職種のままとして、相手役のシナリオを 4 つ用意した。いずれ理解力・判断力には問題のない相手とした。「もしも手帳」を相手に勧める際、勧められた際の違和感を「もやっとな感」と呼び「もやっとなシート」に記入した。  
セッションのまとめを睦町クリニック朝比奈完医師が行った。
- (6) グループワーク：7~8 人の多職種からなるグループで行った。もしも手帳を用いたロールプレイで生じたもやっとな感を共有しつつ、それでも ACP は進め方によっては国民の利益になるという前提の元で、ACP 普及についての具体案を出し合った。

- (7) 各グループの発表では、ACP 普及は相手の年代は健康具合、ADL の程度によって、アプローチ方法が違うのではないかという意見が多くみられた。
- (8) また年代によって、普及のために行う媒体やツールも違い、特に若い世代に相手であれば、SNS やインターネット動画やアプリを用いた方法もあるという意見が聞かれた。死についての教育は全世代に必要という意見も多かった。10 グループの発表後に、投票を行い、最優秀アイデアを発表した。最優秀アイデアは、ACP 啓発のためのショートムービーの作成であった。患者（利用者）のライフレビューをもとに動画を作成することが当人の支えになるかもしれないという内容が含まれていた。今後、動画作成を行う予定とした。
- (9) 総評は新横浜クリニック城谷典保医師と横浜市医療局西野均課長にお願いした。多職種、広い年代からの ACP に対する違和感を聞くことができ、また具体的な施策まで検討ができ大変有意義であったこと、自分自身が ACP を勧める側であり、勧められる側でもあることを強く意識ができてよかった。市の政策としても、個人の価値観を優先するというのを忘れずに取り組んでいきたいということが語られた。

#### 横浜市医療局との協働について

- ・横浜市医療局が作成した市民が人生会議を考えるためのツールである『もしも手帳』を扱った研修会を行った。
- ・横浜市医療局職員が企画段階から関わった。（会議出席、メール審議）
- ・横浜市医療局の後援事業として行った。（医師会等の各職能団体への広報、医療局 Facebook ページでの広報）
- ・当日人数分の『もしも手帳』の配布をしてもらった。
- ・研修会当日は横浜市医療局職員に受付等を行いながら、参加者としてグループワークにも参加してもらった。
- ・横浜市医療局課長より、研修会の最後に感想を述べてもらった。

#### 横浜市医師会との協働について

- ・横浜市医師会常任理事であり、『もしも手帳』の作成検討会のメンバーである赤羽重樹医師に企画段階から関わって頂き、基調講演をして頂いた。
- ・横浜市医師会の後援事業として行った。（医師会での広報）
- ・横浜市医師会館の会議場を使用し、研修会を行った。
- ・研修会当日は横浜市医師会の職員に設備（PC、プロジェクター、スクリーン、音響等）についてのサポートをもらった。

## 効果

### 参加者のアンケート内容を抜粋

- (1) ACP に対する地域での意識が高まった。
- (2) ACP に対してそれぞれの職種でできることは何か？と能動的に考えることができた
- (3) ACP については、各世代に違うアプローチをした方がよいかもしれない。
- (4) 研修会に出て、ACP は多職種で協働し取り組むべき課題と考えることができた。
- (5) 自分なりに ACP に対応する自信がでた

## 振り返り

- (1) 横浜市医師会後援のため研修会への医師参加が多かった。(12名)
- (2) 横浜市医療局からも4名研修者として参加して頂いた。
- (3) 医学部生、薬学部生の参加がなかった。(看護学生は3名参加)

## 感想

- (1) 地域の多職種で企画・開催する研修会は、患者さんを介しての連携とはまた違う信頼関係の構築に役立つと感じました。もしも手帳は横浜市医療局が主体で、横浜市医師会ははじめ各職能団体が大きな協力をして作成した ACP ツールであり、そのもしも手帳を用いた研修会を行うということで、各関係者も非常に協力的でした。医師会、自治体の後援を頂くことは、研修会の周知や会場の確保等において、非常に大きな力になることを今回知ることができました。

## 参考資料) 参加者アンケート結果

### 回答者の背景

・回答者 63 名 (参加者 77 名)

・性別: 男性 17 人 女性 45 人 無回答 1 人

・年代: 20 代 3 人 30 代 7 人 40 代 16 人 50 代 29 人 60 代 7 人 70 代 1 人

・職業: 医師 10 人 歯科医師 1 人 看護師 15 人 薬剤師 2 人 ケアマネジャー 13 人 介護士 3 人 栄養士 1 人 歯科衛生士 2 人 MSW 2 人 行政 3 人 その他 12 人 (薬学部学生、介護施設事業主、病院事務等)

・実際に身の回りの方 (家族、友人、恋人、ご近所さん) と自分の人生会議をしたことがあるか?

はい 24 人 いいえ 39 人

・実際に身の回りの方 (家族、友人、恋人、ご近所さん) と相手の人生会議をしたことがあるか?

はい 25 人 いいえ 37 人

・実際に患者さん (利用者さん) と人生会議をしたことがあるか?

はい 32 人 いいえ 30 人

・人生会議についての講演会やワークショップに参加したことがあるか?

はい 31 人 いいえ 32 人

### 研修前

・実際に身の回りの方 (家族、友人、恋人、ご近所さん) と自分の人生会議ができる

1. 全く自信がない 6 人 2. あまり自信がない 20 人 3. 少し自信がある 27 人 4. 自信がある 10 人 5. 非常に自信がある 0 人

・実際に患者さん (利用者さん) と自分の人生会議ができる

1. 全く自信がない 9 人 2. あまり自信がない 20 人 3. 少し自信がある 25 人 4. 自信がある 7 人 5. 非常に自信がある 1 人

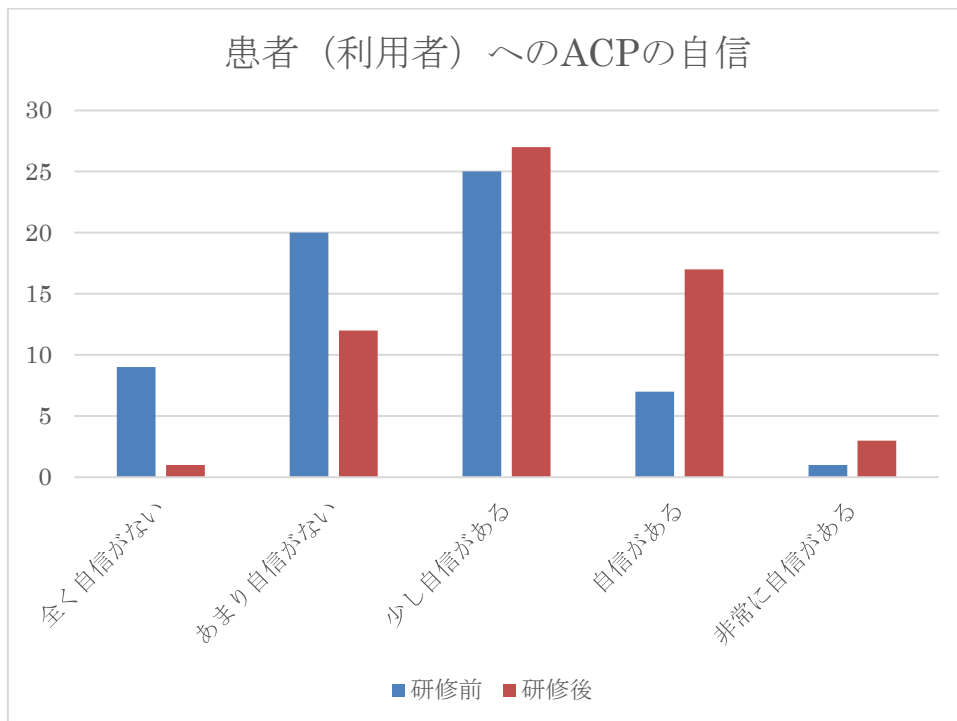
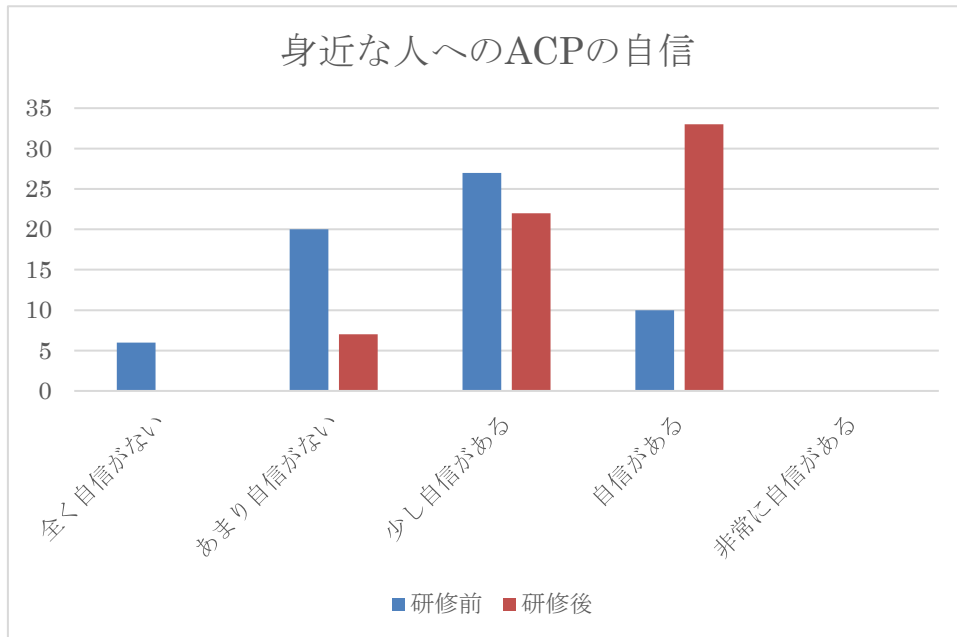
### 研修後

・実際に身の回りの方 (家族、友人、恋人、ご近所さん) と自分の人生会議ができる

1. 全く自信がない 0 人 2. あまり自信がない 7 人 3. 少し自信がある 22 人 4. 自信がある 33 人 5. 非常に自信がある 0 人

・実際に患者さん（利用者さん）と自分の人生会議ができる

1. 全く自信がない 1人 2. あまり自信がない 12人 3. 少し自信がある 27人 4. 自信がある 17人 5. 非常に自信がある 3人



## アンケート解析

質問①身の回りの方（家族、恋人、友人、ご近所さん）と相手の人生会議ができる。

質問②目の前の患者さん（利用者さん）と、自分の職種に求められる人生会議ができる。

1. 全く自信がない 2. あまり自信がない 3. 少し自信がある 4. 自信がある 5. 非常に自信がある

5件法で回答し、解析は前後の対応のある t 検定を行い、効果量を計算した。

	前. 対応 平均/標準偏差	後. 対応 平均/標準偏差	P 値	効果量
①身の回りの方 人 (n=62)	2.63/0.85	3.26/2.65	0.02	$d = 0.76$
②患者/利用者 者 (n=60)	2.53/0.95	3.15/0.86	0.23	$d = 0.90$

## アンケートの自由記載

- ・とても楽しく内容が広がり、いい機会でした。
- ・一般の人には” ACP” が分かりにくい。”もしも会議”にしてはどうでしょう？
- ・死を迎える可能性の高い疾病の方でないと ACP、もしも手帳はお勧めできないと考えていた方が、考え方を覚えてくださるプロセスがとてもよく分かりました。
- ・改めてもしもの事を自らも考えることができました。ありがとうございます。
- ・医療関係者の参加が多かったですが、ハイスペックな議論で新鮮でした。
- ・講演、ロールプレイ、グループワーク盛りだくさんの企画でしたが、すべての企画で沢山の学びをいただき、来てよかったと感じた。グループ分けも職種の異なる方とお話しできて貴重な機会になった。ACP について、自分自身身近なものとなった。

- ・多職種の方と話せてよかった。自分の父の誕生日にもしも手帳を渡したい。
- ・研修に参加したことで自分でもしも手帳について家族と話し合うことで自分としてもきっかけにしていきたい。
- ・とても楽しくわかりやすい研修でした。
- ・グループディスカッションでのワークがとても楽しかった
- ・講演会スタイルよりワークショップですと頭に入っていて理解できて大変良かった。また参加したい。
- ・ACP の話をするとき、まだ話を進めることへの怖さがあります。相手を傷つけてしまわないか…とか、とても良い勉強になった。
- ・せっかく作ったもしも手帳をちゃんと活用したいと思った。これがきっかけになればと思う。
- ・在宅医療にかかわる人間として患者さんにもしも手帳を広めてゆけるようになりたい
- ・松戸市では医師会と行政が協力して、医師が小中学校で「いのちの授業」をしています。横浜市でもできないですか？検討してください。
- ・劇あり、GW あり楽しい企画でした。また参加したいです。
- ・各職種での話し合いはとても多くの意見を聞く場となり、いい機会でした。
- ・ACP について学校で少し話すくらいでなかなか深く考えることもなかったので考える機会があってよかった
- ・いい企画だった。ロールプレイ、シナリオの一部は無理があったが、グループでの参加者から自分自身が気づかない意見・考えが出て ACP の実務に役立つ機会になった
- ・これからの時代にあった発表内容だった
- ・多職種での話し合いは目からウロコがたくさんだった。同一職種同士のかかわりばかりの日常なので、このような場に定期的に出られたらいいなと感じた。
- ・楽しい研修だった。劇団完熟みかんに入りたい。
- ・自分だけが ACP をわかっていないと思っていたが、みなさん同じような悩みを抱えていると思うことができてよかった。まだまだこれからの取り組みだと感じたので、まず自分自身がやってみることが大切だと改めて感じた。
- ・新しい視点で考えることができた。普及が進めばいいと思う。
- ・チカばあちゃんの演技が光っていた。ロールプレイをすることでもしも手帳の説明にブレがあって自信がないことを自覚できた。
- ・多職種の様々な年代の方とディスカッションができてとてもいい機会だった。
- ・グループワークのすすめかたに戸惑った
- ・様々な職種の方の話が伺えてよかった
- ・ACP の普及は課題と感じて参加したので大変参考になった



- ・ いろいろな視点からの学びができた
- ・ もしも手帳の勧め方、きっかけづくりについて改めて考え、気付きもあった
- ・ 普及活動の具体的手段を考えるという意図がうまく伝わっていなかったように感じたディスカッションだった

当ワークショップは「公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団」の助成により開催されました。財団の皆さまには心より感謝申し上げます。